

③予防接種の注意事項

1. 接種間隔について

複数の予防接種を受ける場合は決められた接種間隔をあけて下さい。

- 小児感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎(ムンプス))は、すべて“生ワクチン”です。
- B型肝炎ワクチンは、“不活化ワクチン”になります。
- 生ワクチンは、次の生ワクチンの接種を受けるまでは、27日以上の間隔をあける必要があります。
- 新型コロナワクチンを接種する場合は、前後に他の予防接種を行う場合、原則として13日以上の間隔をおく必要があります。

※令和2年10月1日から、異なるワクチンの接種間隔について、注射生ワクチンどうしを接種する場合は27日以上あける制限は維持しつつ、その他のワクチンの組み合わせについては、一律の日数制限は設けないことになりました。詳細は、厚生労働省ホームページをご覧ください。

2. ワクチンについて

生ワクチンについて

生きた病原体の毒性を弱めたもので、その病気にかかった場合に近い免疫(抗体)をつくろうとするものです。接種後から体内で病原体の増殖がはじまりますので、それぞのもっている性質に応じて、発熱や発疹の軽い症状がでることがあります。十分な抗体が獲得されるまで約1か月が必要です。

不活化ワクチンについて

病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせた(不活化、殺菌)ものを原材料として作られます。自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いため、1回の接種では十分ではなく、何回か追加接種が必要になります。

予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人(明らかな発熱とは、通常37.5°C以上)
 - ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
 - ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分でアナフィラキシー症状をおこしたことのある人
 - ④ 妊娠していることが明らかな人
 - ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
- 上記①～④に該当しなくとも、医師が接種が不適当と判断した場合は接種できません。
- ⑥ B型肝炎予防接種にあたっては、母子感染のおそれがある者で、抗HBsヒト免疫グロブリン投与にあわせて組換え沈降B型肝炎

ワクチンの接種を受けたことのある者

予防接種を受ける際、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている人
- ② 以前に予防接種を受けたあと、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ③ 今までにけいれんをおこしたことがある人
- ④ 過去に免疫不全の診断を受けた人、および近親者に先天性免疫不全の人がいる人
- ⑤ ワクチンには抗原のほかに培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているので、これらにアレルギーがあるといわれたことのある人

予防接種後に注意することは…

- ① 接種後30分間は、急な副反応がおきがあるので、医師とすぐに連絡をとれるようにしておく。
- ② 生ワクチン接種後は4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意する。
- ③ 入浴は差し支えないが、注射した部位をこすらないようにする。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活でかまわないが、水泳、マラソン等の激しい運動は避ける。

3. 起こりうる副反応について

麻しん・風しん混合(MR)ワクチン

接種後13日以内(特に7~10日)に発熱、発疹の症状が多くみられる。

接種直後から数日中に過敏症状(発熱、発疹、そう痒)がみられることがある。

稀に、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑症、急性散在性脳膜炎、脳炎・脳症、けいれん

麻しんワクチン

接種後5~14日、発熱、麻疹様の発疹がみられる。(発熱の持続時間は通常1~2日)

その他に局所反応、熱性けいれん、じんましん等。

稀に、急性散在性脳膜炎、脳炎・脳症、急性血小板減少性紫斑病

風しんワクチン

まれにショック、アナフィラキシーや血小板減少性紫斑病。

発疹、尋麻疹、紅斑、そう痒、発熱、リンパ節の腫脹、関節痛。

おたふくかぜ(ムンプス)ワクチン

接種2~3週間後に発熱、頭痛、嘔吐がみられた時にはワクチン株による脳膜炎発症の可能性もあるため、担当医に連絡すること。(無菌性脳膜炎は、0.03~0.06%の頻度で発生と報告がある)

アナフィラキシー、急性血小板減少性紫斑病、極めて稀に難聴、精巣炎、卵巣炎の報告がある。

発熱、耳下腺腫脹、接種局所の発生、腫脹を認めることがあるが、一過性であり数日で軽快。

水痘ワクチン

接種局所の発赤・腫脹、発熱、発疹。

稀に接種直後から翌日にかけて、過敏反応(発疹、じんましん、紅斑、そう痒、発熱等)、

稀にアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、帯状疱疹を伴った無菌性脳膜炎

接種後1~3週間頃に、発熱、発疹、水疱性発疹が発現するもあるが、一過性で数日中に消失。

B型肝炎ワクチン

倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等。過敏症(発熱、発疹、じんましん、紅斑、そう痒)

◎健康被害について

予防接種法に基づく定期接種以外の予防接種で生じた健康被害については、医薬品副作用被害救済制度へ当該者が請求することとなります。

【参考】 予防接種に関するQ&A集2022 一般社団法人日本ワクチン産業協会